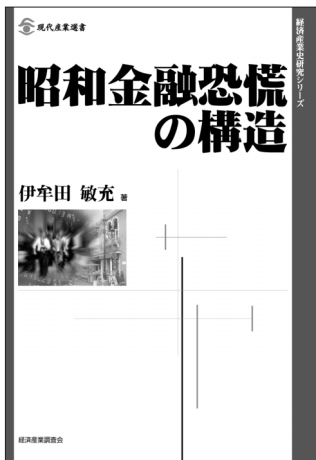


昭和金融恐慌の構造

法政大学名誉教授 伊牟田 敏充 著



A5判 380頁

定 価 6,000円(税別)

送料実費

本書は、1920～40年代に至る我が国銀行部門を分析し、金融構造とその変化を明らかにすることを旨としたものである。我が国銀行部門のこの四半世紀は、第一次大戦ブームとその崩壊、金融恐慌とその救済、戦時金融体制の整備などの諸問題が継起した時期であった。それはまた、昭和金融恐慌を折り目として、前半は恐慌発生に至る矛盾の熟成過程であり、後半は恐慌の緊急処理から戦時体制への再編成過程であったと言える。したがって、本書は、おのずから、昭和金融恐慌の構造を歴史的視覚から探求するものとなった。「あとがき」から

また、本書のために、「現代と昭和金融恐慌」を書き下ろし、佐藤政則氏が「解説—重層的金融構造仮説を巡って—」を論じている。

我が国金融史研究 必読の書!!

是非お勧めします。

発 行 財団法人 経済産業調査会

本 部 〒104-0061 東京都中央区銀座2-8-9 (木挽館銀座ビル)

電話 03(3535)4882 FAX 03(3535)4884

近畿本部 〒540-0008 大阪市中央区常盤町2-2-11 TEL 06(6941)8971 FAX 06(6941)8974

中部支局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-23 TEL 052(955)0635 FAX 052(971)6715

東北支局 〒980-0014 仙台市青葉区本町3-1-17 TEL 022(227)0978 FAX 022(223)5582

四国支局 〒760-0052 高松市瓦町1-9-9 TEL 087(862)6133 FAX 087(862)0477

中国支局 〒730-0017 広島市中区鉄砲町1-20 TEL 082(228)4911 FAX 082(211)1184

目次

現代と昭和金融恐慌一序にかえてー

第1章 恐慌期における企業金融

ー重工業と企業集団ー

大戦バブルの崩壊と企業金融（はじめに）／
製鋼企業の財務政策／コンツェルンの金融
的特徴／両大戦間における重工業金融（む
すびにかえて）

第2章 川崎系銀行集団の形成と解体

なぜ、川崎系銀行集団は消えたのか（問題
の所在）／川崎系銀行集団の形成と実態／
大蔵省・日銀の銀行集中政策／銀行集中政
策と川崎系銀行集団（むすびにかえて）

第3章 破綻銀行の経営構造

金融恐慌のシグナル（問題の所在）／金融
恐慌前夜の銀行の経営構造／休業銀行の特
徴／矛盾の結節点としての中位の都市銀行
（むすびにかえて）

第4章 両大戦間における金融構造の再編成

不況から戦時へ、そして戦後へ（はじめ
に）／重層的金融構造の展開と再編成／両
大戦間の金融政策と地方銀行／諸金融機関
の連関構造とその変貌（地方銀行を環とし
て）／両大戦間の金融構造（むすびにかえて）

第5章 戦時下の金融構造

ー金融恐慌の一帰結ー

転機としての戦時（はじめに）／戦時資金
動員のフレームワーク／軍需金融機関の機
能／リスクの分散・流動化構造／国際的
金融構造の変貌と崩壊

第6章 金融リスクの転嫁メカニズム

ー日本興業銀行と戦時金融金庫ー

はじめに（軍需資金の調達とリスク処理）
／日中戦争開始期の企業ー銀行関係／興銀
の軍需融資の動向／証券業務と株式市場対
策／興銀債券とその他の資金源泉／戦時金
融金庫の設立と業務／おわりに（迂回的リス
ク処理の限界）

第7章 銀行破綻と預金支払

ーその歴史的概観ー

破綻銀行預金の行方（問題の所在）／資料
と方法／銀行破綻の研究史に寄せて／破綻
銀行の預金支払いにおける段階的傾向（試
論として）／預金者サイドの視点の重要性
（むすびにかえて）

あとがき

解説ー重層的金融構造仮説を巡ってー

[麗澤大学教授 佐藤政則]

歩みと仕事

きりとり線

申込書

昭和金融恐慌の構造 _____ 部注文します。

平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

郵便番号 _____ ご住所 _____

(ふりがな)

ご社名 _____

部課名 _____

ご担当者 _____

☎電話 _____

(必ず明記して下さい)